

安全戦略の 転換を求める

越 正毅

東京大学生産技術研究所教授
本学会員

The Safety Strategy should be Revised

Masaki KOSHI

Professor, Institute of Industrial Science,
University of Tokyo, Member, IATSS

1. 危険な国になり始めた日本

今年の交通事故死者がついに一万人の大台を超えそうなことは、残念ながら大方の予想するところとなった。日本の事故率は、今のところ他の国々とくらべて特に良くも悪くもなく、「並み」というところであるが、他の先進諸国の事故率が着実に低下を続けているので、このままで推移すると日本は先進諸国間では危険な部類に入ってしまうことになる。

日本人だけが交通安全上の欠陥をもった国民であるとは考え難いので、方法論がどこか違っているとしか説明のしようがない。

2. 日常性から乖離した交通安全

歩行者としても運転者としても、道路交通はほとんどの日本人にとっては日常生活の延長である。ところが道路交通を律する規範だけは往々にして日常生活の常識とはかけ離れて、お上の規制が支配しており、その価値観たるや一般大衆の理解の外である。

世間の常識からは当然排除されるべき行為が何故かまったくお咎めないのに、どう見ても危険でも迷惑でもない行為が罰せられ、安全であろうとすると遵守不可能な規則も多々あるという有様である。

これに対して、お上はその判断基準を民衆に示すという政策をとらない。

個々の運転者の判断は無用で、むしろ危険だといわんばかりに、理由や根拠を示さぬままに強権を以って民衆の鼻面を引きまわそうとしているように見える。高速道路の規制ひとつ取っても、雨が降ったから、あるいは霧が出たから50キロだ、雪が降ったからチェーンをかけろ、である。実際には雨が降らなくても、霧が出ていなくても、雪が積もらなくてもである。民衆がお上に対して盲目的に服従するという前提に立って安全を保とうとしているのではないか。民衆を雨や霧もわからぬ愚か者として扱う。馬鹿扱い、子供扱いされれば人は賢くも大人にもならない。

3. 個人の能力の登場しかない

わが国の現在の政策の行き着く先は、運転者各人に一人ずつ警察官を付けることである。これは不可能であるし、可能であっても成功する筈がない。

共産主義計画経済が破綻したごとく、やる気も能力もない個人をお上が強権で尻を叩いても、民衆はついて来ない。

現在の運転者の全員が十分に良識的なわけではなく、したがって、お上の焦る気持は分らぬでもないが、急がばまわれである。規制、介入の緩和合理化と自主判断の涵養が正道である。

この道は短期効果をもたらさない。しかし、短期利益の追求に走らされたアメリカの企業経営が、長期展望に立って行動する日本の経営戦略に敗れたという教訓を忘れてはならない。

原稿受理 昭和63年5月16日